

平成十三年文部科学省令第三十五号

独立行政法人国立科学博物館に関する省令
独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三十三号）第二十八条第二項、第三十条第一項及び第二項第七号、第三十一条第一項、第三十二条第一項、第三十三条、第三十四条第一項、第三十七号、第三十八条第一項及び第四項、第四十八号第一項並びに第五十条、独立行政法人の組織、運営及び管理に係る共通の事項に関する政令（平成十二年政令第三百十六号）第五条第二項並びに独立行政法人通則法等の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令（平成十二年政令第三百二十六号）第三十九条の規定に基づき、並びに同法を実施するため、独立行政法人国立科学博物館に関する省令を次のように定める。

（通則法第八号第三項に規定する主務省令で定める重要な財産）

第一条 独立行政法人国立科学博物館（以下「科学博物館」という。）に係る独立行政法人通則法（以下「通則法」という。）第八号第三項に規定する主務省令で定める重要な財産は、その保有する財産であつて、その通則法第四十六条の二第二項又は第二項の認可に係る申請の日（各項ただし書の場合にあつては、当該財産の処分に関する計画を定めた通則法第三十条第一項の中期計画の認可に係る申請の日）における帳簿価額（現金及び預金にあつては、申請の日におけるその額）が五十万円以上のもの（その性質上通則法第四十六条の二の規定により処分することが不適当なものを除く。）その他文部科学大臣が定める財産とする。

（監査報告の作成）
第一条の二 科学博物館に係る通則法第十九条第四項の規定により主務省令で定める事項については、この条の定めるところによる。

2 監事は、その職務を適切に遂行するため、次に掲げる者との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めなければならない。この場合において、役員（監事を除く。第一号並びに第五項第三号及び第四号において同じ。）は、監事の職務の執行のための必要な体制の整備に留意しなければならない。

一 科学博物館の役員及び職員
二 前号に掲げる者のほか、監事が適切に職務を遂行するに当たり意思疎通を図るべき者を前項の規定は、監事が公正不偏の態度及び独立の立場を保持することができなくなるおそれ

のある関係の創設及び維持を認めるものと解してはならない。

4 監事は、その職務の遂行に当たり、必要に応じ、科学博物館の他の監事との意思疎通及び情報交換を図るよう努めなければならない。
5 監査報告には、次に掲げる事項を記載しなければならない。

- 一 監事の監査の方法及びその内容
二 科学博物館の業務が、法令等に従つて適正に実施されているかどうか及び中期目標の着実な達成に向け効果的かつ効率的に実施されているかどうかについての意見
三 科学博物館の役員の職務の執行が法令等に適合することを確保するための体制その他科学博物館の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用についての意見
四 科学博物館の役員の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令等に違反する重大な事実があつたときは、その事実
五 監査のため必要な調査ができなかつたときは、その旨及びその理由
六 監査報告を作成した日

（監事の調査の対象となる書類）
第一条の三 科学博物館に係る通則法第十九条第六項第二号に規定する主務省令で定める書類は、独立行政法人国立科学博物館法（平成十一年法律第七十二号。以下「科学博物館法」という。）及びこの省令の規定に基づき文部科学大臣に提出する書類とする。

（業務方法書に記載すべき事項）
第一条の四 科学博物館に係る通則法第二十八条第二項の主務省令で定める業務方法書に記載すべき事項は、次のとおりとする。

- 一 科学博物館法第十二条第一項第一号に規定する博物館の設置に関する事項
二 法第十二条第一項第二号に規定する調査及び研究に関する事項
三 法第十二条第一項第三号に規定する資料の収集、保管及び供覧並びに調査及び研究に関する事項
四 法第十二条第一項第四号に規定する教育及び普及の事業に関する事項
五 法第十二条第一項第五号に規定する博物館の供用に関する事項
六 法第十二条第一項第六号に規定する研修に関する事項
七 法第十二条第一項第七号に規定する援助及び助言に関する事項

八 法第十二条第一項第八号に規定する調査及び研究の指導、連絡及び促進に関する事項
九 業務委託の基準
十 競争入札その他契約に関する基本的事項
十一 その他科学博物館の業務の執行に関して必要な事項

（中期計画の作成・変更に係る事項）
第二条 科学博物館は、通則法第三十条第一項の規定により中期計画の認可を受けようとするときは、中期計画を記載した申請書を、当該中期計画の最初の事業年度開始三十日前までに（科学博物館の最初の事業年度の属する中期計画については、科学博物館の成立後遅滞なく）、文部科学大臣に提出しなければならない。

2 科学博物館は、通則法第三十条第一項後段の規定により中期計画の変更の認可を受けようとするときは、変更しようとする事項及びその理由を記載した申請書を文部科学大臣に提出しなければならない。
（中期計画記載事項）
第三条 科学博物館に係る通則法第三十条第二項第八号に規定する主務省令で定める業務運営に関する事項は、次に掲げる事項とする。

- 一 施設及び設備に関する計画
二 人事に関する計画
三 中期計画期間を超える債務負担
四 積立金の使途
（年度計画の作成・変更に係る事項）
第四条 科学博物館に係る通則法第三十一条第一項の年度計画には、中期計画に定めた事項に関し、当該事業年度において実施すべき事項を記載しなければならない。

2 科学博物館は、通則法第三十一条第一項後段の規定により年度計画の変更をしたときは、変更した事項及びその理由を記載した届出書を文部科学大臣に提出しなければならない。
（業務実績等報告書）
第五条 科学博物館に係る通則法第三十二条第二項に規定する報告書には、当該報告書が次の表の上欄に掲げる報告書のいずれに該当するかに応じ、同表の下欄に掲げる事項を記載しなければならない。その際、科学博物館は、当該報告書が同条第一項の評価の根拠となる情報を提供するために作成されるものであることに留意しつつ、科学博物館の事務及び事業の性質、内容等に応じて区分して同欄に掲げる事項を記載するものとする。

（業務実績等報告書）
第五条 科学博物館に係る通則法第三十二条第二項に規定する報告書には、当該報告書が次の表の上欄に掲げる報告書のいずれに該当するかに応じ、同表の下欄に掲げる事項を記載しなければならない。その際、科学博物館は、当該報告書が同条第一項の評価の根拠となる情報を提供するために作成されるものであることに留意しつつ、科学博物館の事務及び事業の性質、内容等に応じて区分して同欄に掲げる事項を記載するものとする。

Table with 2 columns: 科学博物館の業務の実績 (Left) and 当該事業年度における業務の実績 (Right). The table details reporting requirements for various periods and metrics.

<p>て自ら評価を項に係るものである場合には次の行った結果をイからハまでに掲げる事項を明らかにしたものでなければならぬ。</p> <p>中期目標及び中期計画の実施報告書</p>	<p>中期目標の期間における業務の実績。なお、当該業務の実績が通則法第二十九條第二項第二号に掲げる事項に係るものである場合には、前号に掲げる業務の実績について自ら評価を行った結果を明らかにする。</p> <p>中期目標及び中期計画の実施報告書</p>
<p>期間における毎年度の当該指標の数値</p> <p>二 当該期間における毎年度の当該業務の実績に係る財務情報及び人員に関する情報</p> <p>二 当該業務の実績が通則法第二十九條第二項第二号から第五号までに掲げる事項に係るものである場合には、前号に掲げる業務の実績について科学博物館が評価を行った結果は、次のイからハまでに掲げる事項を明らかにしたものでなければならぬ。</p> <p>イ 中期目標に定めた項目ごとの評価及び当該評価を付した理由</p> <p>ロ 業務運営上の課題が検出された場合には、当該課題及び当該課題に対する改善方策</p> <p>ハ 過去の報告書に記載された改善方策のうちその実施が完了した旨の記載がないものがある場合には、その実施状況</p>	<p>二 科学博物館は、前項に規定する報告書を文部科学大臣に提出したときは、速やかに、当該報告書をインターネットの利用その他の適切な方法により公表するものとする。</p> <p>第六條及び第七條 削除</p> <p>（会計の原則）</p> <p>第八條 科学博物館の会計については、この省令の定めるところにより、この省令に定められないものについては、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従うものとする。</p> <p>二 金融庁組織令（平成十年政令第三百九十二号）第二十四條第一項に規定する企業会計審議会により公表された企業会計の基準は、前項に規定する一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に該當するものとする。</p> <p>三 平成十一年四月二十七日の中央省庁等改革推進本部決定に基づき行われた独立行政法人の会計に関する研究の成果として公表された基準（第十一條の二第三項第一号イ及びロにおいて「独立行政法人会計基準」という。）は、この省令に準ずるものとして、第一項に規定する一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に優先して適用されるものとする。</p> <p>（会計処理）</p> <p>第九條 文部科学大臣は、科学博物館が業務のため取得しようとしている償却資産についてその</p>
<p>減価に対応すべき収益の獲得が予定されないと認められる場合には、その取得までの間に限り、当該償却資産を指定することができる。</p> <p>二 前項の指定を受けた資産の減価償却については、減価償却費は計上されず、資産の原価額と同額を資本剰余金に対する控除として計上するものとする。</p> <p>（対応する収益の獲得が予定されない資産除去債務に係る除去費用等）</p> <p>第九條の二 文部科学大臣は、科学博物館が業務のため保有し又は取得しようとしている有形固定資産に係る資産除去債務に対応する除去費用に係る費用配分額及び時の経過による資産除去債務の調整額（以下この条において「除去費用等」という。）についてその除去費用等に対応すべき収益の獲得が予定されないと認められる場合には、当該除去費用等を指定することができる。</p> <p>（譲渡差額を損益計算上の損益に計上しない譲渡取引）</p> <p>第九條の三 文部科学大臣は、科学博物館が通則法第四十六條の二第二項の規定に基づいて行う不要財産の譲渡取引についてその譲渡差額を損益計算上の損益に計上しないことが必要と認められる場合には、当該譲渡取引を指定することができる。</p> <p>（財務諸表）</p> <p>第十條 科学博物館に係る通則法第三十八條第一項に規定する主務省令で定める書類は、行政コスト計算書、純資産変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書とする。</p> <p>（事業報告書の作成）</p> <p>第十條の二 科学博物館に係る通則法第三十八條第二項の規定により主務省令で定める事項については、この条の定めるところによる。</p> <p>二 事業報告書には、次に掲げる事項を記載しなければならない。</p> <p>一 科学博物館の目的及び業務内容</p> <p>二 国の政策における科学博物館の位置付け及び役割</p> <p>三 中期目標の概要</p> <p>四 館長の理念並びに運営上の方針及び戦略</p> <p>五 中期計画及び年度計画の概要</p> <p>六 持続的に適正なサービスを提供するための源泉</p> <p>七 業務運営上の課題及びリスクの状況並びにその対応策</p>	<p>二 前号に掲げる者のほか、会計監査人が適切に職務を遂行するに当たり意思疎通を図るべき者</p> <p>三 会計監査人は、通則法第三十八條第一項に規定する財務諸表並びに同条第二項に規定する事業報告書及び決算報告書を受領したときは、次に掲げる事項を内容とする会計監査報告を作成しなければならない。</p> <p>一 会計監査人の監査の方法及びその内容</p> <p>二 財務諸表（利益の処分又は損失の処理に関する書類を除く。以下この号及び次項において同じ。）が科学博物館の財政状態、運営状況、キャッシュ・フローの状況等を全ての重要な点において適正に表示しているかどうかについての意見があるときは、次のイからハまでに掲げる意見の区分に応じ、当該イからハまでに定める事項</p> <p>イ 無限定適正意見 監査の対象となつた財務諸表が独立行政法人会計基準その他の一般に公正妥当と認められる会計の慣行に準拠して、科学博物館の財政状態、運営状況、キャッシュ・フローの状況等を全ての</p>
<p>八 業績の適正な評価に資する情報</p> <p>九 業務の成果及び当該業務に要した資源</p> <p>十 予算及び決算の概要</p> <p>十一 財務諸表の要約</p> <p>十二 財政状態及び運営状況の館長による説明</p> <p>十三 内部統制の運用状況</p> <p>十四 科学博物館に関する基礎的な情報</p> <p>（財務諸表の閲覧期間）</p> <p>第十一條 科学博物館に係る通則法第三十八條第三項に規定する主務省令で定める期間は、五年とする。</p> <p>（会計監査報告の作成）</p> <p>第十一條の二 通則法第三十九條第一項の規定により主務省令で定める事項については、この条の定めるところによる。</p> <p>二 会計監査人は、その職務を適切に遂行するため、次に掲げる者との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めなければならない。ただし、会計監査人が公正不偏の態度及び独立の立場を保持することができなくなるおそれのある関係の創設及び維持を認めるものとして解してはならない。</p> <p>一 科学博物館の役員（監事を除く。）及び職員</p>	<p>二 科学博物館は、前項に規定する報告書を文部科学大臣に提出したときは、速やかに、当該報告書をインターネットの利用その他の適切な方法により公表するものとする。</p> <p>第六條及び第七條 削除</p> <p>（会計の原則）</p> <p>第八條 科学博物館の会計については、この省令の定めるところにより、この省令に定められないものについては、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従うものとする。</p> <p>二 金融庁組織令（平成十年政令第三百九十二号）第二十四條第一項に規定する企業会計審議会により公表された企業会計の基準は、前項に規定する一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に該當するものとする。</p> <p>三 平成十一年四月二十七日の中央省庁等改革推進本部決定に基づき行われた独立行政法人の会計に関する研究の成果として公表された基準（第十一條の二第三項第一号イ及びロにおいて「独立行政法人会計基準」という。）は、この省令に準ずるものとして、第一項に規定する一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に優先して適用されるものとする。</p> <p>（会計処理）</p> <p>第九條 文部科学大臣は、科学博物館が業務のため取得しようとしている償却資産についてその</p>

重要な点において適正に表示していると思
められる旨

除外事項を付した限定付適正意見 監査
の対象となつた財務諸表が除外事項を除き
独立行政法人会計基準その他の一般に公正
妥当と認められる会計の慣行に準拠して
科学博物館の財政状態、運営状況、キャッ
シュ・フローの状況等を全ての重要な点に
おいて適正に表示していると認められる旨
及び除外事項

ハ 不適正意見 監査の対象となつた財務諸
表が不適正である旨及びその理由
三 前号の意見がないときは、その旨及びその
理由

四 第二号の意見があるときは、事業報告書
(会計に関する部分を除く。)の内容と通則法
第三十九条第一項に規定する財務諸表、事業
報告書(会計に関する部分に限る。)及び決
算報告書の内容又は会計監査人が監査の過程
で得た知識との間の重要な相違等について、
報告すべき事項の有無及び報告すべき事項が
あるときはその内容

五 追記情報
六 前各号に掲げるもののほか、利益の処分又
は損失の処理に関する書類、事業報告書(会
計に関する部分に限る。)及び決算報告書に
関して必要な報告

七 会計監査報告を作成した日
四 前項第五号に規定する「追記情報」とは、次
に掲げる事項その他の事項のうち、会計監査人
の判断に関して説明を付する必要がある事項又
は財務諸表の内容のうち強調する必要がある事
項とする。

一 会計方針の変更
二 重要な偶発事象
三 重要な後発事象

(短期借入金金の認可の申請)

第十二条 科学博物館は、通則法第四十五条第一
項ただし書の規定により短期借入金金の借入れの
認可を受けようとするとき、または同条第二項
ただし書の規定により短期借入金金の借換えの認
可を受けようとするときは、次に掲げる事項を
記載した申請書を文部科学大臣に提出しなけれ
ばならない。

一 借入れ又は借換えを必要とする理由
二 借入れ又は借換えの額
三 借入れ先又は借換え先

四 借入れ又は借換えの利率
五 償還の方法及び期限
六 利息の支払方法及び期限
七 その他必要な事項
(通則法第四十八条に規定する主務省令で定め
る重要な財産)

第十三条 科学博物館に係る通則法第四十八条に
規定する主務省令で定める重要な財産は、土地
及び建物並びに文部科学大臣が指定するその他
の財産とする。

(通則法第四十八条に規定する主務省令で定め
る重要な財産の処分等の認可の申請)

第十四条 科学博物館は、通則法第四十八条の規
定により重要な財産を譲渡し、又は担保に供す
ること(以下この条において「処分等」とい
う。)について認可を受けようとするときは、
次に掲げる事項を記載した申請書を文部科学大
臣に提出しなければならない。

一 処分等に係る財産の内容及び評価額
二 処分等の条件
三 処分等の方法
四 科学博物館の業務運営上支障がない旨及び
その理由
(通則法第五十条の六第一号に規定する主務省
令で定める内部組織)

第十四条の二 科学博物館に係る通則法第五十条
の六第一号に規定する離職前五年間に在職して
いた当該中期目標管理法人の内部組織として主
務省令で定めるものは、現に存する館長の直近
下位の内部組織として「現内部組織」という。で
あって再就職者(離職後二年を経過した者を除
く。次項において同じ。)が離職前五年間に在
職していたものとす。

2 直近七年間に在職し、又は存していた館長の直
近下位の内部組織(独立行政法人通則法の一部
を改正する法律(平成二十六年法律第六十六
号)の施行の日以後のものに限る。)として文
部科学大臣が定めるものであって再就職者が離
職前五年間に在職していたものが行っていた業
務を現内部組織(当該内部組織が現内部組織で
ある場合にあっては他の現内部組織)が行って
いる場合における前項の規定の適用について
は、当該再就職者が離職前五年間に当該現内部
組織に在職していたものとみなす。
(通則法第五十条の六第二号に規定する主務省
令で定める管理又は監督の地位)

第十四条の三 科学博物館に係る通則法第五十条
の六第二号に規定する管理又は監督の地位とし
て主務省令で定めるものは、職員の退職管理に
関する政令(平成二十年政令第三百八十九号)
第二十七条第六号に規定する職員が就いている
官職に相当するものとして文部科学大臣が定め
るものとする。
(積立金の処分に係る申請書の添付書類)

第十五条 科学博物館に係る独立行政法人の組
織、運営及び管理に係る共通の事項に関する
政令第二十一条第二項に規定する文部科学省令
で定める書類は、同条第一項に規定する中期目
標の期間の最後の事業年度の事業年度末の貸借
対照表及び当該年度の損益計算書とする。
(評価に關する庶務)

第十六条 科学博物館法附則第五条第三項及び第
六条第二項に規定する評価に関する庶務は、文
化庁企画調整課において処理する。

附則
(施行期日)
第一条 この省令は、平成十三年四月一日から施
行する。ただし、第十六条の規定は、公布の日
から施行する。
(成立の際の会計処理の特例)

第二条 科学博物館の成立の際科学博物館法附則
第五条第二項の規定により科学博物館に出資さ
れたものとされる財産のうち償却資産について
は、第九条第一項の指定があつたものとみな
す。

附則
(平成一八年三月三十一日 文部科
学省令第二四号)
この省令は、平成十八年四月一日から施行す
る。

附則
(平成二二年一月二六日 文部科
学省令第二二号)
この省令は、独立行政法人通則法の一部を改
正する法律の施行の日(平成二二年十一月二
十七日)から施行する。

附則
(平成二七年三月三〇日 文部科
学省令第二二号) 抄
(施行期日)
第一条 この省令は、独立行政法人通則法の一部
を改正する法律(以下「通則法改正法」とい
う。)の施行の日(平成二七年四月一日)か
ら施行する。
(業務実績等報告書の作成に係る経過措置)

第二条
通則法改正法附則第八条第一項の規定により
旧通則法第二十九条第一項の中期目標が新通則
法第二十九条第一項の規定により指示した同項
の中期目標とみなされる場合におけるこの省令
による改正後の次に掲げる省令の規定及び独立
行政法人大学改革支援・学位授与機構に関する
省令(平成十五年文部科学省令第五十九号)第
五条第一項の規定の適用については、これらの
省令の規定中「当該事業年度における業務の実
績。なお、当該業務の実績は、当該項目が通則
法第二十九条第二項第二号」とあるのは「当該
事業年度における業務の実績。なお、当該業務
の実績は、当該項目が独立行政法人通則法の一
部を改正する法律(平成二十六年法律第六十六
号)による改正前の通則法(以下この表におい
て「旧通則法」という。)第二十九条第二項第
三号」と、「同項第二号、第四号及び第五号」と
あるのは「同項第二号、第四号及び第五号」と
、「通則法第二十九条第二項第二号から」とあ
るのは「旧通則法第二十九条第二項第二号から」
と、「期間における業務の実績。なお、当該業
務の実績は、当該項目が通則法第二十九条第二
項第二号」とあるのは「期間における業務の実
績。なお、当該業務の実績は、当該項目が旧通
則法第二十九条第二項第三号」とする。
一から四まで 略
五 独立行政法人国立科学博物館に関する省令
第五条第一項
(業務報告書又は事業報告書の作成に係る経過
措置)

第三条 この省令による改正後の次に掲げる省令
の規定は、通則法改正法の施行の日以後に開始
する事業年度に係る業務報告書又は事業報告書
から適用する。
一から五まで 略
六 独立行政法人国立科学博物館に関する省令
第十条の二第三項
附則
(平成二八年四月一日 文部科学省
令第二三三三号) 抄
(施行期日)
第一条 この省令は、平成二八年四月一日から
施行する。

附則
(平成三〇年一〇月一日 文部科学
省令第二九号) 抄
(施行期日)
第一条 この省令は、平成三十年十月一日から施
行する。

附則
(令和元年六月一三日 文部科学省
令第四四号) 抄

(施行期日)

第一条 この省令は、公布の日から施行する。

(財務諸表及び業務報告書又は事業報告書の作成に係る経過措置)

第二条 この省令による改正後の次に掲げる省令の規定は、平成三十一年四月一日以後に開始する事業年度に係る財務諸表及び業務報告書又は事業報告書から適用し、同日前に開始する事業年度に係る財務諸表及び業務報告書又は事業報告書については、なお従前の例による。

一から五まで 略

六 独立行政法人国立科学博物館に関する省令第十條及び第十條の二

附 則 (令和四年三月三十一日 文部科学省

令第一七号)

この省令は、公布の日から施行する。